



1 はじめに

平城西中学校区地域教育協議会は奈良市教育ビジョンによる「地域全体で子ども達を守り育てる体制づくりの推進」を踏まえ、子ども達の教育活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの活性化を図ることを目的とした奈良市地域教育推進事業として、全中学校区に設立された協議会の一つです。

以下が事業の主な取組目標です。

- (1) 地域の人材や環境を生かした特色ある教育活動を展開し、子どもの教育活動の充実を図る。
- (2) 地域と学校の推進事業を通して、地域の教育力の活性化をめざす。
- (3) 学校を地域コミュニティの拠点とすることにより、学校・家庭・地域がお互いの役割や機能を十分に理解し、連携・協働していく仕組みをつくる。
- (4) 保幼・小・中・高の発達の連続性を踏まえ、子どもの学びと発達を保障し、生きる力を育む。

以上の事業の趣旨に従い、まず学校園の要請があった環境整備事業のための学校支援ボランティアの募集を行い、地域の人材が学校園の環境整備に関わり、大活躍して、学習環境の向上に大きな成果をあげました。

2 平城西中学校区キッズ消防士・ジュニア救命士育成講習受講制度

東日本大震災の発生後、防災教育の必要性を実感し、授業の中で園児、児童、生徒が発達に応じ継続的に防災を学ぶ「平城西中学校区キッズ消防士・ジュニア救命士育成講習受講制度」がスタートしました。奈良市消防局、奈良市北消防署、奈良市消防団の指導・協力を得て、学校園との調整、授業体験を重ねて、各学園11年間を通して防災学習プログラムが作り上げられ、運用されています。

3 防災セミナー(2017 防災フェス)

「キッズ消防士・ジュニア救命士育成講習受講制度」と同時進行で年に1度「防災セミナー」と銘打って、地域住民・児童生徒に参加を呼びかけ、地域全体で防災を考え、体験する機会を持ちました。内容は毎回工夫を凝らし、奈良市危機管理監の体験講話、DMAT（災害派遣医療チーム）やDPAT（災害派遣精神医療チーム）、日本赤十字社救護班等の震災関連体験談話を聴いたり、「防災クイズ」で学んだり、「防災グループ討議の図上訓練（DIG）」に参加して、地域防災について意見交換を行いました。

体験コーナーとしては煙・起震車・放水・バケツリレー・担架運び・水消火器、防災体操、防災・避難用品学習、防災グッズ作り、非常食作りなど様々な場を設定しました。2017年は「災害現場等におけ



地域の方々も参加した防災セミナーでの
図上訓練



防災フェスでのDMATの医師と中学生
(DMAT制服着用)



防災フェスでの身近な物を使用した
応急手当の実習



消防団の指導による放水体験

る救急処置」を13名の医療従事者の指導の元、グループに分かれて、実施しました。教員が負傷者役となり、大人から小学生まで熱心に取り組む姿がありました。

4 「助けられる側から助ける側に」

平城西中学校区は開発から50年を経た新興住宅地です。子育て世代は京都、大阪へと通勤し、少子化の影響もあり、日中は高齢世代と子ども達の街と化します。こども園から中学3年生まで11年間にわたる防災教育の継続により、子ども達が地域の中で“助けられる側から助ける側に”成長し、生きる力を育んでいきます。

地域教育として防災に取り組むことで、学校・家庭・地域がお互いの役割や機能

を十分に理解し、連携・協働していく仕組みをつくる役割を担うことを願います。



中学生が考えた防災マスコット
「BOUSAIくん」